

## 令和5年度 地下水水質測定結果の概要

### 1 調査の目的

有害物質による地下水汚染の未然防止等を図るため、水質汚濁防止法第15条の規定により、県知事は地下水の水質の汚濁の状況を常時監視しなければならないとされており、同法第16条の規定に基づき毎年測定計画を作成し、これに従って国土交通省、高知県及び高知市が地下水の水質測定を行っています。

地下水質の概況を把握するために概況調査を行い、その中で環境基準値を超過するものがあつた場合は、汚染井戸周辺地区調査で汚染範囲を確認し、継続監視調査で継続して水質の変化を調査しています。

地下水は水道水源などの貴重な水資源であることから、平成元年度に評価基準が設定され、平成9年3月に環境基準として23項目、平成11年2月には26項目、平成21年11月には28項目について基準が定められています。このほか、地下水質の挙動についての知見を集めるものとして要監視項目及び指針値25項目が定められています。

### 2 調査地点数

令和5年度は、7市7町1村で合計45井戸の調査を実施しました。

#### (1) 概況調査

市町村単位の概況調査を順次行っており、令和5年度は中央西福祉保健所及び須崎福祉保健所管内の市町村を中心に調査を実施しました。

令和5年度 地下水 概況調査測定地点数

高知市	6	南国市	1	土佐市	2	須崎市	2	四万十市 <sup>※</sup>	2
いの町	3	中土佐町	2	佐川町	1	越知町	2	梶原町	1
日高村	1	津野町	2	四万十町	3				

13市町村（5市7町1村）計28井戸

※ このうち1井戸（四万十市入田）については、環境基準設定項目（健康項目）は測定対象外

#### (2) 汚染井戸周辺地区調査

香美市内の1継続監視井戸が廃止されたため、令和5年度は、廃止された継続監視井戸の周辺の1井戸で調査を実施しました。

#### (3) 継続監視調査

過去に汚染等があつた井戸について、汚染物質の推移を調査しました。

令和5年度 地下水 継続監視調査測定地点数

高知市	7	室戸市	1	南国市	3	土佐市	1	香美市	3	佐川町	1
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

### 3 検出状況

各調査区分における検出状況は次のとおりです。

#### (1) 概況調査

令和5年度は、環境基準を超過した井戸はありませんでした。

環境基準未満ではありますが、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が27井戸、鉛が2井戸、砒素が2井戸、セレンが1井戸、ふっ素が1井戸、ほう素が15井戸で検出されました。

### 令和5年度 地下水 概況調査検出井戸について

項目	基準値 (mg/l以下)	濃度範囲 (mg/l)	調査 井戸数	検出 井戸数	基準超過 井戸数	検出された地点(井戸数)
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10	～ 2.8	27	27	0	四万十市入田地区1井戸を 除くすべての地点
鉛	0.01	～0.005	27	2	0	四万十町、土佐市
ヒ素	0.01	～0.004	27	2	0	四万十町、梶原町
セレン	0.01	～0.002	27	1	0	高知市
ふっ素	0.8	～0.08	27	1	0	四万十町
ほう素	1	～0.08	27	15	0	高知市(4)、南国市、 土佐市、須崎市(2)、 四万十市、佐川町、越知町、 梶原町、日高村、津野町、 四万十町

#### (2) 汚染井戸周辺地区調査

測定した揮発性有機化合物について、検出されませんでした。

#### (3) 継続監視調査

室戸市の1井戸においてテトラクロロエチレンが、高知市の1井戸においてほう素が、高知市の1井戸について硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が環境基準を超過して検出されました。その他の井戸については、環境基準値以下でした。

### 令和5年度 地下水 継続監視調査検出井戸について

項目	基準値 (mg/l以下)	濃度範囲 (mg/l)	調査 井戸数	検出 井戸数*	基準超過 井戸数	検出された地点 (井戸数)
1,2-ジクロロエチレン	0.04	～0.031	6	2	0	室戸市、佐川町
トリクロロエチレン	0.01	～0.003	6	2	0	室戸市、佐川町
テトラクロロエチレン	0.01	～0.170	6	5	1	高知市(2) 室戸市、香美市、 佐川町
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10	～13	7	7	1	高知市(4)、南国市 土佐市、香美市
ほう素	1	～3.2	1	1	1	高知市

注) 基準超過井戸数含む

#### 4 その他

地下水の汚染は、過去にクリーニング事業場で使用されたテトラクロロエチレン等の有機溶剤によるものと、農地周辺での施肥等の影響による硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素によるもの及び事業場から流出した六価クロムによるものがあります。

テトラクロロエチレンとその分解物質及び六価クロムについては、調査を継続してい

きます。

また、農地周辺については、今後とも調査を継続するとともに、施肥使用の適正化について農業部局と指導を行っていきます。

令和5年度 地下水 水質環境基準及び適合状況

項 目	基 準 値	調査井戸数	不適合井戸数
カドミウム	0.003 mg/1 以下	27	0
全シアン	検出されないこと	27	0
鉛	0.01 mg/1 以下	27	0
六価クロム	0.02 mg/1 以下	29	0
ヒ素	0.01 mg/1 以下	27	0
総水銀	0.0005 mg/1 以下	27	0
アルキル水銀	検出されないこと	0	—
PCB	検出されないこと	27	0
ジクロロメタン	0.02 mg/1 以下	34	0
四塩化炭素	0.002 mg/1 以下	34	0
クロロエチレン (又は塩化ビニルモノマー)	0.002 mg/1 以下	32	0
1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/1 以下	34	0
1,1-ジクロロエチレン	0.1 mg/1 以下	34	0
1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/1 以下	34	0
1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/1 以下	34	0
1,1,2-トリクロロエタン	0.006 mg/1 以下	34	0
トリクロロエチレン	0.01 mg/1 以下	34	0
テトラクロロエチレン	0.01 mg/1 以下	34	1
1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/1 以下	34	0
チウラム	0.006 mg/1 以下	27	0
シマジン	0.003 mg/1 以下	27	0
チオベンカルブ	0.02 mg/1 以下	27	0
ベンゼン	0.01 mg/1 以下	34	0
セレン	0.01 mg/1 以下	27	0
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 mg/1 以下	34	1
ふっ素	0.8 mg/1 以下	27	0
ほう素	1 mg/1 以下	28	1
1,4-ジオキサン	0.05 mg/1 以下	27	0
計		45	3

注1) 基準値は、年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とします。

2) 「検出されないこと」とは、昭和46年12月環境庁告示第59号に定める方法により測定した場合において、結果が当該方法の定量限界を下回ることをいいます。